

総裁選挙 所見発表演説会

平成一九年九月一六日(白)午後二時〇〇分

自由民主党本部八階ホール

麻生太郎所見発表演説

衆議院議員 麻生太郎

麻生太郎でございます。

親愛なる同僚議員の皆さん、自由民主党黨員、党友の皆さん、皆さんを通じて、わたくしは敬愛する、日本国民の皆さんに申し上げます。

そして世界の皆様に、わたくしはおのれの信ずるところを訴えます。

わたしが愛する日本は、いま、この瞬間、立ちすくんでおります。

本来歩みを止めるべきでないときに、急停止を余儀なくされております。

このときを思うにつけ、わたくしは断腸の思いに駆られます。

責任を果たさずとして、果たせずにおりますこの一週間、またこの先の一週間。

政治の空白に、痛切な責任を感じます。国民の皆様に、心からお詫びを申し上げます。

だからこそ、この総裁選挙に課された期待と、責任は、ことのほか大きいと思うわけではありません。

本総裁選の意義とは

自由民主党が本当に変わったのが、国民は見ております。

開かれた国民政党として、その名に恥じない政党になったのが、

国民は、瞳を凝らしております。

本総裁選挙の意義は、まずもって、その点にこそあろうと存じます。

後世、歴史家がふりかえるとき、古い自民党と、小泉改革以来の新しい自民党との再試合だったと、そう記述するであります。

どんな結末をもたらすのか。われわれに課せられた責務は重大である。

と存じます。

わたしどもすべて、国民の目を強く意識し、政策をもって白黒をつける戦いを、堂々と戦わねばならぬと存じます。

わたくしは、皆様の前に、政策の選択肢をお見せします。

わたくしが信じる、日本人の能力を語ろうと思いません。

指導者に求められる、資質を申し上げます。

そのうえで、何を選ぶのか。

公平無私の見方、国益を忘れぬ目をもって、選んでいただきたい、このように思います。

強い指導者として希望」を語る

急ごしらえでつくった合意は、簡単に崩れます。

あわててまとめた多数派は、成立のその瞬間、瓦解に向けて動き出します。

我が自由民主党は、既にそのとき、過去の歴史から学んだはずでありました。

我が党は長い歴史において、ある結論に達してまいりました。

それは、指導者を選ぶとき、国民に広く、候補者と政策の選択肢をお見せし、国民の声を聞きながら選ぶのでなければならぬという、そのことであっています。

皆さん

「まほげ日本が、危機に臨んで動じない、強い指導者を必要としているときはありません。」

「安定した」指導者ではありません。「強くて、頼りになる」指導者をこそ、必要としております。

また、「まほげ」日本の農山村、漁村、地域の経済が、たった「文字」を求め、渴望しているときはありません。

その「文字」とは、「希望」ではありません。

朝に希望をもって目覚め、昼は懸命に働き…」

皆さん

朝あしたに希望をもって目覚め、昼は懸命に働き、夜は、感謝とともに床につく。

人間の営みとは、もしこの三つが十分にできるなら、幸せなのだと思えます。

わたくしは、日本の若者に希望を与えたい。

農山村、漁村のおじいちゃん、おばあちゃんに、「この先、そんなに悪くはありませんよ、きつといふことがありませんよ」といふ、希望を感じてもらいたい。

わたくしは、毎晩、感謝の思いとともに眠りに就けるように、粉骨砕身、この身を捧げて参る所存です。

またいまくらい、日本の発する言葉が重みを増してこないことを、なごのべ

あります。

日本の発する言葉とは、煎じ詰めたところ、総理の発する言葉であります。

世界がそれに、耳を傾けます。

日本の環境を守り、治山治水に精を出しておられるお父さん、

お弁当をつくって子供を送り出し、それから自分も働きに出るお母さん、あるいはまた、ネットカフェ難民と呼ばれ、あしたの暮らしを心配する若者にも、総理は呼びかけなくてはならぬのだと存じます。

わたくしは、強い言葉を発する総理になりたいと存じます。

我が国の進むべき道はこうだと、明確な言葉を語れる総理になりたいと存じます。

日本とというのは素晴らしい国だ、頼りになる仲間だ、そして、尊敬すべき国だと、諸外国の指導者に、また国民に思ってもらうことのできる、そういう言葉を発することのできる、総理大臣になりたいと、考えております。

実力解放、自力成長

総理に選ばれましたあかつきには、日本をどんなふうに変えたいのか、申し上げます。

日本と日本人の底力に、わたしは揺るぎない信頼を置いております。その底力を、存分に解放すること。

それによって、力強い成長の軌道に、いまいちど我が国を乗せることとなります。

地方経済に、息を吹き返させることでもあります。

実力解放、自力成長、であります。

これから具体的な例を、内政について三つ、それから外交について三つ、申しあげます。

年金、格差、そして経営者の眼による成長戦略

始めは内政についてであります。

第一は、将来不安の払拭。これは目下の状況で、まずは年金の話だと存じます。

第二に、徹底的な機会の平等。不当な格差は、断固つぶすということです。

第三に、経営者の目をもって、新たな成長戦略を力強く推し進める、ということでもあります。

順に、ご説明いたします。

まずは年金であります。

支払い漏れが一人もないよう、徹底を期します。

そのため、すべての国民の皆様へ、年金が確認できる葉書をお送りします。

信頼に足る年金制度へ政権の命賭ける

社会保険庁、自治体窓口で保険料を横領した不逞の輩の行いは、金額の多寡を問わず、言語道断の所業であります。

なぜなら、これは制度に寄せる国民の信頼を根底から掘り崩し、ひいては政治それ自体に対する不信を助長するからに、ほかなりません。

わたくしは、年金が国民の未来を託すにたる、信頼の置ける制度に生まれ変わるよう、政権の命を賭けて取り組んで参ります。

加えて、年金問題の本当の核心は、今日ただいま三五歳の青年が、六五歳になったとき、安心して暮らせるか。

そこに、見通しをつけさせてやることにあるかと存じます。

まずは現行制度に不公平をなくし、次に年金制度の将来設計を考え直します。

このように、総力をつき込む所存です。

第二は、機会の平等です。

人間とは選択する動物であるからこそ……

四〇歳とか、五〇歳になれば、人間、自分の顔に責任を持って、といいます。

危機に及んでどっしり落ち着き、ほほえみを絶やさぬ顔。

わたくしは、一ついつ顔を国民の皆様に見せすることも指導者の使

命であるかと信じます。

人間とは、目の前の選択肢の中から、ひとつひとつ選んでいき、ついに顔をも自分でつくるわけであります。

ところが、おぎゃあと生まれたその場所が、日本のどこであるか。

生んでくれた両親が、どんな両親であるか。

自分で選ぶことはできません。

したがって、政府が心がけるべき最も大事なことは、機会の平等を徹底して図るといふことでもあります。

そこから、格差の是正といふ、緊急の政策課題が出て参ります。

中でも、農山村、漁村といった、地方。

企業でいえば、中小零細企業。

ここに、いまの日本では、強い影が落ちております。

農山村、漁村に生まれつき、中小零細企業に働く両親のもとに生を受けた子供が、ただそのことだけで将来に豊かな展望をもてない……

そんなことになれば、日本は日本でなくなりません。

地方交付税と補助金の大改革を

方法があります。

例えば、地方交付税のあり方を大幅に変えることが、その一つと存じま

す。
補助金にしても、地方が自分の工夫を活かして使えるようにしてやることです。

総務大臣として、わたくしは、国から地方へ三兆円の税源移譲という大改革を手がけました。全庁が反対でした。地方にできることは地方に、構造改革をさらに進めます。

危機に追い込まれたとき、人間は一つの反応をとるであろうと思います。助けてくれーと言って、人を当てにする。なにくそと言って、自分で活路を開く。

中央と地方の関係が今のままですと、地方に「なにくそ」といつ気持ちもなかなか起きません。

加賀屋と旭山動物園にできたこと
例を挙げます。

能登半島の加賀屋。老舗の旅館です。

交通の便が悪く、だんだんと客足が遠のいておりました。

しかし、仲居さんに英語や中国語を勉強させ、台北や香港からのお客さんを増やして伸びました。

このあいだ、地震の被害に遭われましたが、評判はいささかも衰えておりません。

それから北海道の旭川にある旭山動物園。わたしも行きました。今では日本一有名な動物園です。

あれも、なにくそと言って、活路を開いた一例です。

企業や、団体には、一つひとつがいくつでもできる。

自治体にも、これはできるといついつにせねばならぬのであります。

別の例を挙げます。

半導体は、シリコンの板に、回路を書きます。

普通、回路は平面に並べます。

しかし一定面積の板に、回路を平面に並べる微細な技術は、もう限界に
来ております。

それなら回路を、垂直に重ねて書いていけば、限界を突破できるじゃないか。

実はこれ、世界最先端の技術ですが、日本人の科学者が思いついた独創です。

「とてつもない日本」の底力を、地方へ

圧倒的競争力をもつこんな技術で、我が国がいまいちど、半導体産業の先頭に立つ。

そんなことも、不可能ではありません。

申し上げます。日本の底力には、「とてつもないものがあるのだと、そう存じます。

そしてそういう技術をもった工場を、地方が誘致してはどうか。観光産業なら、お客さんを広くアジアに求めるとか、ヨーロッパの客を、思いきってオーストラリアやニュージーランドに求めるとか、自治体には頭さえ絞れば、そしてそれを許す財政的裏付けと人材さえあれば、できることがいろいろある。

わたくしの都市、地方間格差是正政策の根本には、市町村長が、地域経営者としての発想をもって、動きやすくする、そういう背骨が通っております。

霞が関と地方に、経営者の発想を

申し上げますが、こつこつ話は霞が関からは出てきません。

総理総裁に求められる力とは、霞が関に信頼されつつ、違うアイデア、違う発想を、彼らには到底思いつけない突破口を、示してやることです。

それに必要な総裁の能力とは、あらゆる人に、この人と話したい、聞いてもらいたい、アイデアを教えたい、そう思ってもらえることです。

そして第三は、経営者の目をもって、新たな成長戦略を力強く推し進める、こつこつあります。

成長促進、といますと、予算をくれ、と。

これが、お役人の発想。

何か新しい商売を探したり、仕入れの仕方を変えて原価をぐっと下げた

り、これが経営者の発想です。

我が党の政調会長をさせていただいたときでありました。

港の通関やら、建築申請やら、そのたびに役所に紙を提出しろという法律が、数えてみたら五万二〇〇〇本もありました。

それを、たった一本新しい法律を作り、一回でそれもオンラインで、手続きが済むようにしました。

すさまじい抵抗はありましたが、構造改革とはこつこつことをやるのであります。

日本経済のコストを、思い切って下げてやる。

それで、利幅が増えれば、株の配当も、働く人の給料も、ともに上がる。

こつこつやり方は、いくらでもあります。

ただし、役所の縦割りを残しては、何もできません。

強い政治指導者がいて、初めて可能なのであろうと存じます。

インド洋の給油活動は国益そのもの

外交に、話を移します。

三つ申し上げたいのは、第一に、インド洋の給油活動。

第二に、いま日本の外交が歴史的転機にある、こつこつ。

第三が、拉致問題の解決です。

インド洋の活動は、日本が国益をかけ、自分のためにやっていることです。

六年前の九月一日、日本人も二四人犠牲になったことをわれわれは忘

れてはなりません。

インド洋は、日本に油を送る、シーレーンの出発点でもあります。

これをテロリストの勝手気ままにさせてはならぬ。

日本の国益とは、その一点に集中します。

これを、アメリカのためなどと言うのは、事実誤認も甚だしい。

広がる日本外交の地平

ヨーロッパの国々が、日本を見直したのは、この給油活動です。

それからイラクに行って、盗みの一つ、軽犯罪の一つも犯さず、見事な規律を示したわが自衛隊の諸君を見て、イギリスやオランダは驚きました。

皆さん

我が国のGDPは世界の10%を占めます。中国、韓国、ロシアを足したより、まだでかいですから。

それにふさわしい貢献を、日本は立派にやっている。

こつ、彼らが心の底から得心した。

それでいま、我が国の外交は、大きく地平を広げました。これが、第二の点です。

欧州諸国と一緒に、東欧諸国、バルカン諸国で、自由と、繁栄を伸ばすこつ。

こつこつ政策が、びんぎんぎんになった。

安倍総理は、インドの国会でこれを「自由と繁栄の弧」をつくる政策だと紹介されました。

アメリカと、オーストラリアと、一緒になって、アジアや太平洋の安全にもつと責任をもっていくつ、という政策につながった。

それらの根も、元をただと、インド洋の活動にあつたのであります。

これだけのスケールをもつ活動なのだということ、誰かが国民に語り続けていかねばなりません。わたくしは、やってまいる所存です。

日米同盟の強化は、こつこついろいろなルートから、もつとできるようになります。

にぶく曇った新潟の海　拉致問題断固解決へ

第三は、拉致問題の解決であります。

わたしは、新潟の海岸に足を運びました。

横田めぐみさんが連れ去られた、その場所に行きました。

にぶく曇る、日本海を見ました。涙がにじみました。

断固、あきらめません。わたくしは日本国の主権をかけ、国民の生命を守るこつ、国家にとって最も重要な任務の遂行のため、北朝鮮に解決を迫ります。

最後に申し上げます。

日本はわたしの誇り

わたくしは、パレチナの若者が、日本を待っているのを知っております。

ホンジュラスの子供達が、青年海外協力隊がこしらえた教科書で、算数を学び、学校が好きになったことを知っております。

カンボジアの民法をつくっているのが、まだうら若い日本の女性であることを知っております。

日本は、わたしたちが誇りとする国家です。まさに、「とつもない日本」なのです。

わたくしの愛し、誇りとしてやまぬ日本を、日本人一人ひとりが誇りとし、未来に希望を、活力を求めることができる国になるよう、命を賭けて参ります。

全国の党員、党友、ならびに国会議員諸先生の深いご理解をお願い申し上げます。麻生太郎の所見の表明いたします。

了

